

- 再建・インプラント義歯の適応. 第20回新潟ハイパーサーミア研究会, 新潟, 2006. 5.26.
- 3) 藤田 一, 小林哲夫, 田井秀明, 島田靖子, 永田昌毅, 星名秀行, 関 雪絵, 池田順行, 青柳貴之, 齋藤正直, 西澤理史歩, 黒川 亮, 中間純子, 高木律男, 吉江弘正: 口腔扁平苔癬における SNP 解析による疾患感受性遺伝子の探究. 第6回新潟ゲノム医学研究会, 新潟, 2006. 6. 3.
- 4) 黒川 亮, 永田昌毅, 星名秀行, 藤田 一, 小林孝憲, 高木律男, 齋藤 力, 新垣 晋, 大西 真, 大山登喜男, 栗田 浩: 舌癌悪性度に関連するインテグリン遺伝子発現の定量的検討. 第66回新潟癌治療研究会, 新潟, 2006. 7.29.
- 5) 青柳貴之, 星名秀行, 永田昌毅, 藤田 一, 池田順行, 高木律男: 口腔癌14例に対するTCF補助化学療法の効果と安全性. 第7回新潟口腔癌化学療法研究会, 新潟, 2006.12. 1.
- 6) 平 周三, 林 孝文, 星名秀行, 新垣 晋, 鈴木 誠, 石田 均, 間島寧興: 口腔顎顔面領域におけるFDG-PET検査のSUV値について. 第35回新潟核医学懇話会, 新潟, 2006. 4.22.

## 【その他】

- 1) 西澤理史歩, 永田昌毅, 藤田 一, 星名秀行, 高木律男: 最近のトピックス; MMP-1 遺伝子プロモーター領域多型が示す口腔扁平上皮癌若年発症との関わりについて. 新潟歯学会雑誌, 36(1), 65-66頁, 2006.
- 2) 星名秀行: MMP-1 遺伝子多型2Gアリルは口腔癌発症のリスクを増加させる. 平成18-19年学度日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究(C), 計3, 500千円.
- 3) 田中 裕: 歯科心身症で発症する身体症状への心理的因子の関与の立証とその定量的測定の試み, 文部省科学研究費補助金, 若手研究(B), 課題番号18791487, 2006-2007.
- 4) 荒井良明: 「アゴが大きく開かない 痛い! 顎関節症」. テレビのお医者さん, UX新潟テレビ21, 2007. 3.29.
- 5) 小宮山彌太郎: 市民公開講座 “歯科インプラントって何?”. 新潟市歯科医師会共催, 新潟, 2006. 6.10.
- 6) 小宮山彌太郎: “患者の望む治療とは? 新しい治療戦略”. 新潟市歯科医師会共催, 新潟, 2006. 6.11.

## 顎関節治療部

## 【論文】

- 1) 高木律男: 総説 顎関節内障 - 顎関節における血液供給の意義 -. 新潟歯学会雑誌, 36: 1-11, 2006.
- 2) 松久淳子, 山田一尋, 福井忠雄, 新部洋史, 齋藤功, 河野正司. 骨格性下顎前突症患者における咬筋

- および側頭筋の筋電図分析. 日本顎変形症学会雑誌, 16: 147-152, 2006.
- 3) 飯田明彦, 高木律男, 福田純一, 池田順行, 田中 裕: 先天性両側下顎関節突起欠損の1例. 口科誌, 55: 187-192, 2006.
- 4) Kaan Orhan, Hideyoshi Nishiyama, Sasai Tadashi, Shumei Murakami, and Souhei Furukawa, Comparison of altered signal intensity, position, and morphology of the TMJ disc in MR images corrected for variations in surface coil sensitivity, Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod, 101:515-522, 2006.

## 【著書】

- 1) 山田一尋. 顎関節の機能. 「歯の移動の臨床バイオメカニクス 骨と歯根膜のダイナミズム」188-197頁, 医歯薬出版, 東京, 2006.
- 2) 山田一尋. 顎関節に配慮すべき臨床的ポイント. 「歯の移動の臨床バイオメカニクス 骨と歯根膜のダイナミズム」198-206頁, 医歯薬出版, 東京, 2006.

## 【学会発表】

- 1) 敦井智賀子, 荒井良明, 井上誠, 谷口裕重, 山田好秋: 下顎運動時の頭頸部協調運動の筋電図学的検討. 日本顎口腔機能学会第36回学術大会, 鹿児島, 2006. 4.15. 日本顎口腔機能学会雑誌, 13: 40-41, 2007.
- 2) Tsurui C, Arai Y, Inoue M, Taniguchi H, Ootaki S, Yamada Y: Coordination of jaw and neck movements during rhythmic jaw movements. Mastication Symposium, Australia, 2006.6.26-27.
- 3) Niwano M., Nozawa-Inoue K., Suzuki A., Ikeda N., Ajima H., Takagi R. and Maeda T.: Expression of Caveolin-3 in rat TMJ synoviocytes during development, 85th International Association for Dental Research (IADR), New Orleans, 2007, 3, 21-24. Program: 1893, 2007.
- 4) Sakurai N, Kohno S, Hayashi T, Nishiyama H, Takagi R, Yamada K, Nomura S, Arai Y, Terada K, Miyajima H, Kato K, Hosogai A, Ajima H, Ii N. A trial of Web-based teledentistry system for temporomandibular disorders patients. The 1st international and the 19th Annual Meeting of the Japanese Society for the Temporomandibular Joint Program and Abstracts: 125, 2006.
- 5) 池田順行, 安島久雄, 山田裕士, 嵐山貴徳, 庭野将広, 大鳥居淳, 高山裕司: 当科における顎関節に対する外科治療例の検討. 第1回国際顎関節学会&第

- 19 回日本顎関節学会総会, 名古屋, 2006. 7.19-21.  
第 1 回国際顎関節学会 & 第 19 回日本顎関節学会総会プログラム・抄録集: 239, 2006.
- 6) 福田純一, 永田昌毅, 山田裕士, 池田順行, 高木律男: 外科的治療が奏効した上顎骨骨炎後の陳旧性開口障害の 1 例. 第 44 回日本口腔科学会北日本地方会, 郡山, 2006. 6. 2- 3.
- 7) 山中正文, 福田純一, 児玉泰光, 安島久雄, 池田順行, 嵐山貴徳, 高木律男: 側頭開頭術後に生じた開口障害の 1 例. 第 51 回日本口腔外科学会総会, 北九州, 2006.10.12-13. 日本口腔外科学会雑誌, 52: 106, 2006.
- 8) 荒井良明: 咬合機能回復における顎機能を考慮した難易度分類—TJM 分類法の提案—. 日本補綴歯科学会第 115 回学術大会, 札幌, 2006. 7. 9, 日本補綴歯科学会雑誌, 50: 252, 2006.
- 9) 安島久雄, 荒井良明, 寺田員人, 高木律男, 西山秀昌, 山田一尋, 高田佳之, 小野由紀子, 櫻井直樹, 井伊直子: 新潟大学医歯学総合病院顎関節治療班における顎関節症への対応. 第 1 回国際顎関節学会 & 第 19 回日本顎関節学会総会, 名古屋, 2006. 7.19-21, 第 1 回国際顎関節学会 & 第 19 回日本顎関節学会総会プログラム・抄録集: 253, 2006.
- 10) 西山秀昌, 小山純市, 田中 礼, 林 孝文. 関節結節の上方斜面部を基準とした開口時下顎頭位の診断精度について. 第 47 回日本歯科放射線学会総会・学術大会, 東京, 2006. 5.13-14.
- 11) Nishiyama H, Hayashi T, Katsura K, Taira S, Koyama J, Tanaka R. The role of temporal muscle as restraining condyle-disc assembly from excessive movement. The 6th Asian Congress of Oral and Maxillofacial Radiology, Bangalore, 2006. 12. 8-10.
- 12) Orhan K, Nishiyama H. Comparison of TMJ disc and mandibular condyle bone marrow signal intensities in bruxism and non-bruxism patients with disc displacement on MR images corrected for variations in surface coil sensitivity, Computer Assisted Radiology and Surgery, Osaka, 2006. 6. 29-7.31.

#### 【研究成果報告書】

- 1) 荒井良明: 顎関節内障患者の顎関節はあそびが大きい. 平成 18 年度科学研究費 (日本学術振興会) 補助金実績報告書若手研究 (B), 課題番号 17791381, 2006.
- 2) 櫻井直樹, 河野正司, 林 孝文, 鈴木一郎, 八木稔, 小林 博, 星名秀行, 寺田員人: 情報の暗号化

を伴うネットワークを活用した顎関節症患者の遠隔診断支援システム構築. 平成 15-17 年度文部科学省科学研究費補助金研究 萌芽研究 (継続) 課題番号 15659462, 2006.

- 3) 櫻井直樹, 河野正司, 林 孝文, 鈴木一郎, 八木稔, 野村修一, 高木律男, 山田一尋, 小林 博, 西山秀昌, 加藤一誠, 野村章子, 丸山 満, 飛田 滋, 本間 濟, 寺田員人, 荒井良明, 星名秀行, 井上誠, 福島正義, 田口 洋, 豊里 晃: ネットワークを活用した顎関節症, 咀嚼・嚥下障害患者の総合的診断支援システム構築. 平成 16-19 年度日本学術振興会研究費補助金研究 基盤研究 (B) (2) (継続), 課題番号 16390552, 2006.
- 4) 安島久雄: 顔面頭蓋の形態異常を伴う CL/Fr マウス顎関節の組織学的及び分子生物学的検討. 平成 17-18 年度日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究 (B), 課題番号 17791442, 計 3, 300 千円.

#### 【講演・シンポジウム】

- 1) 荒井良明: 顎関節症治療の最新基礎知識. 三条市歯科医師会, 歯知の会, 三条, 2006. 9.14.
- 2) 山田一尋: 顎関節症と歯科矯正臨床. 第 20 回日本顎関節学会学術講演会, 鶴見, 2006.10. 5.
- 3) 荒井良明: スプリントを用いた顎関節症の初期治療. ジーシーデンタルカレッジ, 東京, 2006.11.28.
- 4) 高木律男: シンポジウム「関節症と骨・軟骨変化: 軟骨下骨動態から病態へ迫る」・顎関節症. 第 26 回日本骨形態計測学会, 新潟, 2006. 7.27-29.

#### 【その他】

- 1) 荒井良明: 顎関節症治療の基礎知識, 平成 18 年度歯科臨床研修医公開セミナー, 新潟大学医歯学総合病院, 2006. 5.17.
- 2) 荒井良明: 「アゴが大きく開かない 痛い! 顎関節症」. テレビのお医者さん, UX 新潟テレビ 21, 2007. 3.29 放映.

#### 超域研究機構

#### 【論文】

- 1) Li M, Amizuka N, Takeuchi K, Freitas PHL, Kawano Y, Hoshino M, Oda K, Nozawa-Inoue K and Maeda T: Histochemical evidences of osteoclastic degradation of extracellular matrix in osteolytic metastasis originating from human lung small carcinoma(SBC-5) cells. Microsc. Res. Tech, 69: 73-83, 2006.
- 2) Kii I, Amizuka N, Minqi L, Kitajima S, Saga Y and Kudo A: Periostin is an extracellular matrix